

市長不信任案否決で市政は異常事態に 9月議会冒頭から波乱

2日から9月議会がはじまりました。既報のように、冒頭に、学歴差別発言など不適切な発言を繰り返す中川市長の不信任案が提案されました。

決議案を提案した滝沢一成議員は、「上越市は地域医療の再編、13区の存続の危機など課題は山積している。いま立ち止まり、根本問題に向かわなければならない。これではいけないと思った時には黙っていないで、声を上げていくのが私たちの姿でなければならない」などと訴えました。

討論には4人が登壇しました。トップバッターはベテランの本城議員でした。本城議員は、私の隣の席です。始まる前に、「市長は震災対策などで重要な1月に、ある新年会でカラオケを歌っていた。そういう話をしてもいいもんかね」と訊いてこられました。「そりゃ、いいですこて」と答えましたが、その話を市長としての資質のなさ、危機管理意識の薄さを浮き彫りにする事例として引用されました。この話を初めて聞いた人たちは驚いていました。

2番目は宮越議員。長い時間を使って「市民へのリスペクトがない」「政治家として大事なことは約束を守ることだが、私との選挙の時の約束は守らない」「ビジョンがない。ないから語れない。リーダーシップに欠ける」などとのべ、賛成理由としました。

3番目は日本共産党議員団の平良木議員です。同議員は、8月23日に市長が議

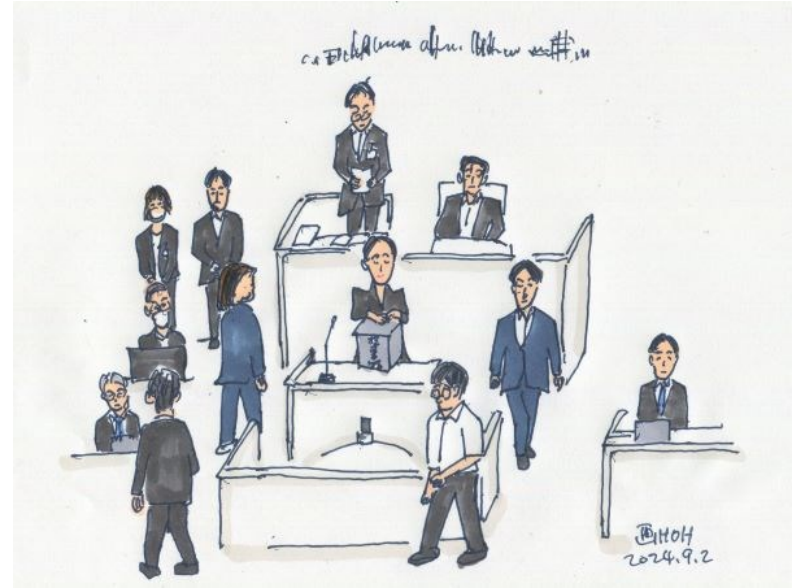
会に示した文書について、「不適切発言の心の字もないし、そのことに関する反省の弁はまったく見当たらない」「多くの市民の声は無視して、自分に都合のよい一部の方々の声に応えて、どこまでも市長の椅子にしがみつくものだ」「最後の3行で、"(先の臨時議会で示した市長給料カット分は)公職の候補者でな

くなった際に対応する、などとしているが、これは、将来の仮定の話であるとともに、少なくともそこに書かれたことが確実に行われるという保証がどこにもない。まったく意味のない文言だ」としました。そして、「市民の信頼を失う発言を繰り返し、そのことを指摘して反省を求めた議会に対しては開き直るという市長では、市民の暮らしを守れないばかりか、市民の利益を限りなく失わせることになることは明白だ」とのべました。

4番目は安田議員です。急遽手を上げて討論を求めましたが、すでに原稿を用意してありました。決議案に反対の立場で発言すると前置きしたので、反対理由として何をあげるのか注目しました。

同議員は、「私も辞職勧告決議には賛成したので今回の不信任案も当初は賛成と考えていた。市民の皆さんの意見を聴き、議員で議論する中でいま可決すべきでないという考えに至った」「市長が議会を解散して選挙になり、その後また市長選挙にまでなれば、当初予定していない公的な費用が多くかかる。そのような市政の停滞、多大な費用負担の可能性があることを決めていいのか」とのべました。そしてさらに、「私は解散されて、市議選をやりたくないというのではない。可決して選挙になっても停滞、このまま市長やられても停滞。どちらも問題であり、早く打破しなければならない」と述べたのです。

このまま続投されては市政が停滞するから、市の信用を低下させマイナスにな



るから7月の臨時議会で辞職勧告決議をしたのではありませんか。続投を選択して、市の信用を取り戻し、市民生活を守って安定させる方策があるのでしょうか。停滞から抜け出す唯一の道は中川市長の辞職しかなかったのです。

しかし、各議員の賛成、反対の意思がわからない無記名投票で採決した結果、不信任に賛成した議員は11人、反対は21人となり、否決されました。

この結果、中川市政は

続くことになりました。不信任決

議案に賛成した議員は言うまでもありませんが、反対した議員もほとんどが中川市長を守ろうという思いはなく、市政はまさに異常事態に突入しました。



【オトコエシ】(再掲)オミナエシ科の多年草。漢字で「男 郎 花」と書きます。草丈は60㍍～100㍍。葉は対生です。夏から秋にかけて草むらに白い小さな花をたくさん咲かせると目立ちます。花期は8月から10月。花言葉は「野性味」「慎重」「賢明」。写真は9月2日、吉川区代石にて撮影。



あぜ道でエサを食べ歩くコウノトリの夫婦。3日、吉川区小苗代にて。

はしづめ法一の 活動レポート

No.2170 2024.9.8

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八一七回 コウノトリの歌

コウノトリの観察を続けていて、その記録にプラスして歌があったらいいなと思っただのは六月の下旬でした。

六月になると、五月六日から次々と生まれた四羽のヒナたちの成長が著しく、その姿を見るだけでうれしくなっていました。その様子を「ミニユニティバンド・「ピアス」のマコさんに伝え、「歌を作ってみませんか」と七月三日に提案しました。

マコさんはこの提案を喜んで受け入れてくれました。そして、早速翌日から動き出しました。この時期、私は毎日、朝の五時半頃から一時間くらいコウノトリの巣などの観察を続けていたのですが、それに付き合ってもらいました。何よりもコウノトリたちの実際の姿を見るなかで歌のイメージを膨らませてほしかったからです。

当日はけっこう強い風があり、ヒナたちの羽を揺さぶっていました。一羽は寝そべっていました。三羽は立って親鳥を待っていました。そんななか、口ばしでカタカタという音を出すコウノトリのカッターリングも聞こえてきました。

コウノトリの観察場所は巣から二五〇センチほど離れたところにあります。ここで三か月間観察を続けているなかで、誕生して二週間ほどのヒナが親鳥の手伝いをして巣の修繕をしている姿やカエルやドジョウなどのエサを運んできた親鳥がカッターリングをして巣の上のヒナたちに合図を送っている様子などいろいろな場面を見てきました。

それらを語りながら、この日は、マコさんに聴いてもらいたい音がありました。一つはお寺の鐘の音です。長峰の光円寺や柿崎区内のお寺の鐘の音が時々聞こえてくるのです。この日も風に乗ってお寺の鐘の音が聞こえてきました。もう一つは、ウグイスの鳴き声です。観察場所の近くでは毎日のようにウグイスがやってきて、美しい声を聞かせてくれていたのです。幸い、この

日の朝はどちらもばつちり聞こえました。マコさんは、「こんな風に聞こえるんですね」といった表情で聴き入っていました。

それから一週間ほどの間に私とマコさんによる歌作りはどんどん進みました。マコさんが歌詞の原案を出し、私が、「コウノトリさん、おらったりよく来てくんたね。また来てくんないや」など方言入り歌詞を示しました。また、バックの演奏ではカッターリングの音に似た木琴を使ってほしいという注文もさせてもらいました。

こうして「コウノトリさん、ありがとね」の歌が最初の巣立ちの前々日、七月十一日には誕生しました。作詞は私とマコさんの共同作業、作曲はマコさんです。「おはよう 起きたかね まんま食ったかね」で始まる曲では、はるばる上越の地にやってきてくれたコウノトリへの感謝の気持ちを前面に出しました。そして、巣立ちを前にジャンプを繰り返す様子や空を初めて飛んで見た尾神岳や米山の姿、きれいな夕日などが入り、最後は、「また来てくんないね」で締めました。編曲を担当してくださった山崎伸さんからはカラオケ版も用意していただきました。ピアスのメンバーの皆さんのおかげで、ふるさと自慢ができる素敵な曲を作ることができました。

コウノトリの歌は私の「小さな作品展」で初めて披露してもらいました。歌の動画をYouTubeにアップしたところ、多くの人から、「ほっこりして涙ぐみます。本当に幸せいっぱいのお歌ですね」「時々聴いて口ずさみ温かいひと時を過ごしています」などの感想が次々と寄せられました。

いまコウノトリは、親鳥だけが吉川などで飛び回り、子どもたちは遠く飛んで行っただけです。そして歌はいま全国へ飛び始めました。この上越もコウノトリとこの歌で大きな話題になるかも知れません。まさに「コウノトリさん、ありがとね」です。

今の政治変えるには……

安塚区で先日、日本共産党主催の“なんでも相談会”が開催されました。衆院比例候補の藤野保史さんと私も参加しました。

会では、地域農業の衰退、著しい人口減少などの大本になっている悪政を変えるにはどうしたらいいか、参加した10数人で語り合いました。

藤野さんは、自民党総裁選で「誰がなろうと裏金政治などは変わらない、日本共産党を伸ばし、市民と野党の共闘で変えよう」と訴えていました。



スマホのカメラで左のQRコードを読みとれば、「コウノトリさん、ありがとね」の歌の動画を見ることができます。

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	8月28日(水)	9月4日(水)
上越消防署	0.057	0.053
上越南消防署	0.050	0.043
新井消防署	0.047	0.050
頸北消防署	0.050	0.037
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.047	0.040
名立分遣所	0.057	0.060
高士分遣所	0.050	0.053

小猿屋から見た風景

市役所への行き来で度々通る小猿屋の市道から見た風景です。稲が黄色い。奥の山は尾神岳と米山です。

